

# 水の文化 満水の タイ

まんすい

タイ  
ランド



高谷好一「雨期の世界単位」  
 柿崎一郎「水辺空間の価値を変えた交通モード」  
 中島正博「水資源 開発と保全のあいだ」  
 スワッタナー・タダニティー  
 「開発におけるテクノロジーと習慣の共存」  
 アジアまち居住研究会「タイ中部の水辺の住いとくらし」  
 編集部「満水のタイ 写真紀行」  
 水の文化楽習実践取材  
 「輪中の智恵を伝えるリスク・コミュニケーション」  
 編集部「水を治める力」  
 所澤さやか「微笑みの国 タイ」  
 古賀邦雄 水の文化書誌「アジアの水」

# 13

水の文化 February 2003 No.

水の文化  
2003  
13



## ミツカン水の文化センター

表紙上：バンコクの北150kmシンブリー郊外の高床式住居。  
 表紙下：ロプリーの川に面した住居群は、ミカン箱のような足に板を渡した栈橋サバーンを雨期の生活道路にしている。  
 上：シンブリー附近は、雨期に街全体が水没するところがある。写真は水がほとんど退いた11月。  
 下左：バンコク、ノイ水路沿いの住居は、高床の上にもう一段、小さな床を作って水位の上昇に対処している。  
 下中：都市郊外では、テンダー（小さなボート）は木製が一般的だが、FRPや鉄板製もたまに見かける。盛り土した道路までと利用距離は非常に短くなったが、やはり雨期にはテンダーが必需品。  
 下右：砥石に水（黄バケツ）をかけて使うところは日本と同じ。砥石は粗砥と中砥を表裏に張り合わせたもの。砥粒が出てくるまでは研がないようだ。「石鯨（白ボール）をチョット使うのがコツよ」と彼女。この日は行事に備えてお寺の包丁に磨きをかけている。

